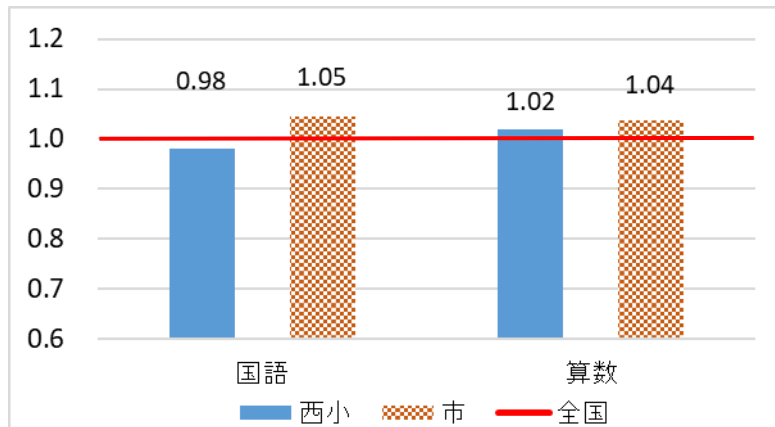


令和3年度 全国学力・学習状況調査について  
 第八中学校区 西小学校 第6学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

「知識及び技能」の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」領域の「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」と、「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」領域の「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」問題が全国平均を上回る結果であった。引き続き、授業の中で、文章全体を捉え、内容を整理して書く学習活動をより大切にしていく。

【算数】

「変化と関係」領域の「2つの速さを求める式の意味を考える（速さを求める除法の式と商の意味を考える）」問題が全国平均を上回る結果であった。引き続き、基本の計算力を確実に身につけ、日常の事象を数理的に捉え数学的に問題発見・解決する学習活動を大切にしていく。

【質問紙調査】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合に増加傾向が見られた。学校全体で、P B I S（ポジティブ行動支援）の考えのもと、望ましい姿を明確にして教育活動を行ったことで、子どもたちが自己の成長と改善点を見出し、次の目標に向けて前向きに取り組んだ結果だと考える。

「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に、「2時間以上」と回答した児童の割合は増えたが、「10分より少ない」が年々増加傾向にあることから、引き続き読書に親しむ取組を進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

小中学校間での授業参観・討議会を行い、9年間を見据えた授業改善の取組を年3回行っている。学力部会では、校区全体での課題を見つけ改善している。

【学校】

P B I S（ポジティブ行動支援）で、子どもの自己有用感を高める取組を行っている。また、子どもたちが読書に親しむために朝読書、読み聞かせ、ビブリオバトル、読書通帳、絵本作家との交流など、読書活動を積極的に取り組んでいく。